

# 編集後記

近年のITやAIの急速な進展にコロナの状況も相まって社会のさまざまな分野でデジタルトランスフォーメーション(DX)への取り組みが重要視されており、製品やサービス、ビジネスモデルに変革をもたらすととらえられているようである。同じく計測分野も、といたいところであるが、計測におけるDXとはその意味するところも含めてあまり定まっていないうに見受けられる。現在の測定器はほぼすべてデジタル化されており、DXを活用する素地は整っているように見えるが、具体的な活用はこれからというところではないだろうか。

DXと計測の関係としては、「計測のためのDX」と「DXのための計測」という二つ立場が考えられる。たとえば電力使用量をデジタルで計測する電力メータが新しいスマートメータに置き換わったことは「計測のためのDX」の一例である。一方でたとえばスマートメータから得られる情報をビッグデータとして解析することも行われており、これが後者の「DXのための計測」である。本

特集ではそれぞれの立場からDXの最新のアプローチや取り組みについて解説していただいた。具体的な内容としては、計量標準から製造現場における計測、さらにはデータ認証に至るまで多岐にわたっている。これら計測分野におけるDXの新しい取り組みの状況とその将来の可能性について、読者の方々に興味をもっていただけるきっかけになれば幸いである。

計測とDXとの関係は、まだ緒に就いたばかりであり雲をつかむような面もあるが、どのような展開を見せるか思いもよらない発展があるようにも思える。私自身も計量標準に携わる立場からなんらかの活用を探っていきたいと思う次第である。

最後に、貴重な知見をご提供いただいた執筆者の皆様、特集号の企画にご協力をいただいた会誌出版委員および学会事務局の皆様には厚くお礼申し上げます。

(清水 祐公子 記)

## ◇第62巻第8号(2023年8月号) 予定目次◇

### 一般記事

リレー記事 「FACE the future」《第55回》“あんよ”を軸とした発達研究と評価ツール開発 露木智咲(花王)

### 特集 触覚・力覚によるロボットシステムの進化

総論 人の触知覚とシステム応用 池田篤俊(近畿大)  
解説 触覚情報に基づくロボットマニピュレーション  
鈴木陽介(金沢大)  
解説 コンタクトリッチタスクのための力覚センシング  
辻 俊明(埼玉大)  
解説 視覚と力覚のクロスモーダル介入によるリハビリ・トレーニング支援 栗田雄一(広島大)  
解説 触覚フィードバックによる感覚運動支援 田中由浩(名工大)  
解説 感覚受容器刺激による力覚提示 梶本裕之(電通大)  
事例紹介 人間の知覚特性を考慮した触覚情報表現 嵯峨 智(熊本大)

事例紹介 深層学習と独自開発グリッパを用いた食品把持  
一個数で管理する大片食品の個別把持と重さで管理する細片食品の定量把持— 高橋城志(Preferred Networks)  
事例紹介 ハプティクス技術を用いた模倣学習 境野 翔(筑波大)  
事例紹介 コイル式柔軟触覚センサとヒト運動解析応用 川節拓実(大阪大)

### 一般記事

特別企画 〈2022年度学術奨励賞受賞論文紹介記事〉  
東京2020パラリンピック競技大会における遠隔操縦ロボットサービス 岩永優香(トヨタ)  
製品紹介 DRの確実な実行を支援するダイヤモンド・リスponsモニタ SORTiA™-Demand Response アズビル株式会社  
製品紹介 ソフトセンサー「推算用モデル式構築/演算ツール」 富士電機株式会社

### (第62巻第7号)

特集号ゲストエディタ: 高辻利之(産業技術総合研究所)

特集号編集WG: 相沢宏明(東洋大学), 飴谷充隆(産業技術総合研究所), 伊藤直史(群馬大学), 川喜田佑介(神奈川工科大学), 西野敦洋(産業技術総合研究所), 藤原正浩(南山大学), 清水祐公子(産業技術総合研究所: 幹事)

### 2023年度 会誌出版委員会(五十音順)

委員長: 永原 正章

副委員長: 山下 智輝

相沢 宏明	飴谷 充隆	板井 志郎	伊藤 直史	伊藤 博通	井上 正樹	大谷 雅之
大塚 章正	金子 修	川喜田佑介	川瀬 利弘	小木曾公尚	小林 洋	豊田 充
西尾 唯	西野 敦洋	信川 創	林部 充宏	藤原 正浩	堀川徳二郎	矢代 大祐
保田 俊行	山田 広明	吉留 忠史	吉野 公三			